



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## — あいなん音故地新 —

### 明日は我が身

夏になると毎年のように洪水や土砂災害のニュースを目にするようになった。日本は亜熱帯化し、これまで経験したことのない大型台風やゲリラ豪雨が襲う。

"経験したことのない"…それは数十年その土地に住み続けた人でさえ想像できん被害が出る、ということ。それに加えて山や川は開発のために形を変えとる。昔と全く同じ山はどこにもない。そうなるといつ何が起こるかは誰にも予測できんってことになる。今まで大丈夫やったから、今回も大丈夫！なんてことは絶対はない。そんな思い込みは捨てたほうがいい。この町を知り尽くしてるから大丈夫！と豪語する人がいたら、その根拠のない自信を捨ててほしい。もし、あなたの言うようにそのとき何もなかったとしても、それはその時だけは運が良かったと考えてほしい。

愛南町は海と山に囲まれた自然が豊かな町。それだけにもし天災が起これば太刀打ちなんてできん。各地での土砂災害や大洪水をニュースで目にしたときは、明日は我が身と、もしもに備えてほしい。備えあれば憂いなし、と昔の人が残してくれた教訓を生かしてほしい。

私はこの町の天災でひとつの命も失ってほしくない。あなたの命はあなたにしか守れない。

(テノヒラkiku)



本日！海日和！！ vol.129

「夏本番」



【ハタタテダイ】

水中メガネ一つで、手軽にサンゴや熱帯魚を見ることのできる鹿島のコーラルビーチは、毎年多くの海水浴客が訪れる。

カラフルなパラソルや浮き輪であふれるコーラルビーチをぬけると、水深が一気に深くなり、景色も一変する。水深30mになると砂地が広がり、点在する岩場に多くの生き物が集まっている。まさに砂漠の中のオアシスのようである。

その日はハタタテダイの群れが乱舞していた。体長20cmほどのチョウチョウオの仲間だが、名前にタイが付いているいわゆる「あやかりタイ」で、タイをありがたがる日本特有の名前である。

この深さになると、いつもは薄暗くなるのだが、その日は透明度もよく、真夏の太陽が降り注ぎ、水の存在を忘れてしまいそうな青い世界だった。こんな日は陸に上がっても、いつまでも海の余韻が残っている。

(撮影地：鹿島コーラルビーチ)

愛南サンゴを守る会 ともてる 西尾知照